

令和6年度 事業報告書
上鳥羽南部いきいき市民活動センター

【指定管理者：株式会社丸起】

目次

1. 管理運営の状況	1
1 施設運営業務	1
(1) 職員体制	1
(2) 貸館等	1
(3) 情報発信等	2
(4) 管理運営	3
(5) その他	3
2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業	4
1. 市民活動支援・活性化事業	4
1. 上鳥羽六斎念仏 発表会 (6/30)	4
2. 上鳥羽六斎念仏 勉強会 (9/29,11/17)	6
3. 歌声サロン (第 1,3 金曜日)	9
4. 健康体操 (第 1,4 木曜日)	11
5. 卓球交流会 (9/28)	13
6. 鯉のぼりによるまちづくり (10/26, R7/3/1)	15
7. 水害学習 (5/10, 9/7)	18
2. サロン運営・活用事業	20
1. マージャン交流 (第 1,3 月曜日,第 3 木曜日)	20
2. 造形教室 (第 4 日曜日)	22
3. フラワー教室 (第 2 土曜日)	24
4. スマホ・パソコン交流 (第 1,4 木曜日)	26
3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算	28
4. 施設の利用者満足度の把握	28
5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価	31
6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項	32

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 3 名（常勤 3 名、非常勤 0 名）

【人材育成の取組】

貸館業務や SNS への投稿などを全職員が同じレベルで行えるよう、実務をとおしてスキルアップに努めている。また、月 1 回に会議を開き本社職員を交えて意見交換やスタッフの力量アップに努めている。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
66	72	74	77	73	73	79	73	59	74	72	92

(年間) 884 件 (前年度比 121%)

(参考：令和 5 年度 726 件 令和 4 年度 642 件、令和 3 年度 552 件)

イ 利用状況

○年間での利用状況について

利用件数の内訳は、第一会議室約 75%、第二会議室約 10%、第三会議室約 15%。利用時間は、第一会議室 71%、第二会議室第 10%、第三会議室 19%であった。

第一会議室の利用の 80%は卓球が占めており、平日と土曜日の午前・午後でシルバー世代が利用されており、日曜日は家族での利用が増えている。日・祝日の利用が増え、卓球での利用の他に楽器練習や武術での利用が増えている。逆に夜間の利用は減少しており、ダンスや定期利用の楽器練習が減ったためである。

第二会議室は、前年度とほぼ変わりはない。ヨガやアームレスリング、楽器練習で利用されている。

第三会議室は利用が増え、前年度の倍になっている。楽器練習や、事業とは別のマーチャンでの利用が平日と土日祝で増えたためである。

事業者利用は、警備業の新任研修での利用があった。

○課題や改善が見られた部分

- ・利用されるのは第一会議室に偏っており、第二、第三会議室の利用が少ない。また、全体的に夜間の利用が少ない。
- ・日曜日の利用が増えてきている。
- ・緊急で日曜日に 40 人以上で会議ができる場所を探している、と問い合わせがあり利用申請をされたところがあった。しかし利用日の直前になって、より交通の便がよいところが見つかった、ということで利用されなかったことがあった。アクセスが困難なことが影響したと思われる。

ウ 利用促進に向けた取組

○センターで取り組まれたこと

利用者が過ごしやすい環境づくりに力を入れている。来館時や退館時の声かけやちょっとした相談事への対応などで、職員に親しみやすさをいただけてもらえるようにした。

昨年度からの取り組みで、来館者向けに1ヵ月間の会議室の空き状況の一覧を作成掲示しており、これをFacebookなどに投稿するようにした。また、わかりやすいので、利用申請の際の資料としても活用している。

センターまで行き方がわからないという問合せが以前から寄せられていることがあり、主要な鉄道の駅からの経路（Google マップ）を、HPのアクセスのページに追加した。また、センター内にも、主なバスや駅までの地図や時刻表を掲示するようにした。

センターの周りには、センターを囲むようにめぐらされている外柵がある。そこに事業のチラシや施設の案内などを掲示した。給水スポットの掲示を行ったところ、夏のある日に自転車がパンクして押し歩いていた方がそれを見て来館されたことがあった。狭い範囲での広報になるが、より充実させていきたい。

エ その他

○サロンについて

令和元年度～6年度の利用状況

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
件数	119	19	47	219	330	313
人数	1010	127	247	994	1739	1678

令和5年度に比べて、件数と人数が減少した。令和4年度に事業として活動されていたサークルは活動を継続されているも、一部のサークルや、5年度に引き続いて行っているサロン運営・活用事業の一部で参加人数が減ったことが影響している。

年度途中から、事業とは別のマージャンサークルの方が利用されるようになり、利用を増やすために作成しているサロンの利用状況一覧を活用して、空き時間に楽しまれている。

その他、会議やちょっとした作業（洋裁）での利用があった。散歩途中に立ち寄って休憩をする、といった利用はなかった。

（3）情報発信等

ア 取組実績

○SNSをはじめとする広報媒体により、情報発信に積極的に取り組んだ事例について

センターのHPに、実施事業の実施風景の写真などを一覧表示で掲載し、わかりやすいようにした。

Facebookには年間172件投稿した。事業の実施予告や実施風景を写真や動画で投稿し、どのような人が参加し、どのようなことをしているのかをわかるようにして親しみを感じるようにし、初めてセンターを利用しに来る方が来館しやすくなるような紙面を心掛けた。

ジモティには、継続してセンターの情報を掲載した。楽器練習での利用を促進するため、掲載ページを増やした。音楽での新たな利用者は現れていないものの、Google の検索ではヒットするので、掲載を継続していこうと考えている。

事業の参加者募集では、チラシを地域回覧板で回覧し、各いきセンへの配架依頼をするほか、一部の事業については参加予定者に SNS へ投稿していただけるよう協力を仰いだ。

- センターの認知度向上だけでなく、市民活動に関わる様々な情報を工夫して周知された取組
センターに持ち込まれたチラシは、了解を得て Facebook へ投稿した。また、上鳥羽地域のことであれば実際に赴いて取材し、写真や動画をアップした（上鳥羽六斎念仏や、地域の寺院のイベントなど）。

イ 取組の効果

- アの取組により効果が見られた事例

初めて来館される利用者には、どのようにしてセンターのことを知ったのかヒアリングを行っている。多くは知り合いに教えてもらったということで、情報発信による効果は実感できていない。また、団体の立ち上げや、事業の実施などにつながることはなかった。

（４）管理運営

- 防火管理者の選定、建築物の保守管理、建築設備の保守管理、備品等の保守管理、清掃業務、保安警備業務、植栽等保全業務の実績について

- ・センター本館 1，2 階の窓ガラスを中心とした清掃業務、建築設備と消防設備の定期点検等を実施。備品は、老朽化した備品の卓球台を 1 台廃棄した。

（５）その他

- 「施設運営の質を高めるための取組」や「将来に向かって地域と共に進化するための取組」で実施したもの

- ・「施設運営の質を高めるための取組」として、月 1 回センター職員と指定管理者による会議（センター会議）を実施している。定期開催することで課題を共有することができ、管理運営で行った点検や保守などを計画的に行った。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

1. 市民活動支援・活性化事業

【事業名】上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～ 取組① 発表会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和6年6月30日（土）13時～15時30分
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数： 29名
- 4 協力団体等：上鳥羽橋上鉦講中
- 5 予算： 54,000円 / 決算： 54,000円

1 事業内容

上鳥羽地区に伝わる上鳥羽六斎念仏の継承と発展を目指し、六斎念仏の担い手の育成と地域の人材の発掘を進めるため、センターと上鳥羽橋上鉦講中が共催で行った。

第1部 「民俗芸能と地域社会 ～創造的発展をめざす子ども六斎教室事業からの関わり～」

講師：藤田加代氏（こども六斎教室連絡会代表）

第2部 ①上鳥羽六斎ジュニアによる「四つ太鼓」「祇園囃子」の実演

②「こども六斎教室について聞いてみる」

講師や上鳥羽橋上鉦講中、実演した上鳥羽六斎ジュニアの方々への質疑応答。

③ワークショップ「四つ太鼓」「祇園囃子」の練習の体験

○評価委員会から指摘された事項と改善点

- ・講座型のスタイルに留まっている。
- ・参加者同士の交流や関わりが希薄。

2 準備段階での工夫

- ・事業の内容について上鳥羽橋上鉦講中と相談をし、希望を汲み取るようにした。その中で、上鳥羽六斎ジュニアの子ども達がどのような思いで六斎念仏をしているのか知りたい、という意見があった。事業のテーマである後継者を育成する上で、当事者たちがどのような思いを持っているのかは重要であると考え、聞く機会を設けられるよう内容を組み立てた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・六斎念仏の担い手の育成と地域の人材の発掘を目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

○（1）の達成度について自己分析し、記載してください。

- ・講話の内容は、上鳥羽六斎ジュニアを含めた京都市内で実施されている子ども達の六斎教室についてのことで、子どもが六斎念仏をするということについての理解が深まった。

- ・発表会ということで出演者の保護者も来られており、地域住民や父兄に練習の成果を披露することができた。また、アンケート結果からは子どもの成長を見ることができたとの感想があった。
- ・事業の後、上鳥羽橋上鉦講中からは上鳥羽六斎ジュニアへの加入者が増えているとの声が聞こえている。地域から六斎念仏の担い手を発掘することの一助になったと思われる。
- ・演者である子ども達の声を知ることができ、上鳥羽橋上鉦講中の方も喜ばれており、後継者の育成の参考になると聞いている。

4 今後の抱負

- ・ワークショップ形式を取り入れたが、どのように進めていくかの打ち合わせが不足していた。後日、練習の体験をしたかったができなかったとの声があり、改善が必要である。
- ・上鳥羽六斎念仏を地域をあげて伝承、保存、支援していくために、方法について講中とも話し合い、他の団体と連携できることがあるかも検討していきたい。

事業風景の写真



【事業名】上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～ 取組② 勉強会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第1回 令和6年9月29日（日）13時～16時
第2回 令和6年11月17日（土）13時～16時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数： 第1回：9名 第2回：19名
- 4 協力団体等：京の風流踊振興会
- 5 予算： 104,000円 / 決算： 104,000円

1 事業内容

ユネスコの無形文化遺産に登録された京都の風流踊の普及啓発のため、「京の風流踊振興会」と連携し、勉強会を2回実施した。

- ・第1回「もういちど問いなおしたい六斎念仏のはなし」（山中崇裕氏 佛教大学大学院修了、天台宗典編纂所勤務）
六斎念仏についての最新の知見を紹介し、参加者からの疑問・質問に答える。
- ・第2回「ちょっと昔の久多の花笠踊りと全国各地の灯籠踊りの諸相 ー特に、火の宗教性と灯籠の風流化を中心にしてー」（大森恵子氏 民俗芸能学会評議員、元佛教大学歴史学部非常勤講師）
風流踊りの”久多の花笠踊り” に関する講演。

○評価委員会から指摘された事項

- ・講座型のスタイルに留まっている。

2 準備段階での工夫

- ・勉強会の内容についてセンターと講師と振興会とで相談し、プレゼンや資料の内容については上鳥羽橋上鉦講中に協力を仰ぎ校正作業を行っていただいた。
- ・勉強会の告知については振興会とセンターでそれぞれ行うことにした。センターではチラシやFacebookの他、事業に出席予定の方に呼びかけて、事業の予定をSNSで発信していただいたりした。
- ・第1回の打ち合わせ段階で、講師から一般の人が六斎念仏についてどのような疑問を持っているのかを知りたいという希望が上がった。そこで、より多くの質問を得るためにチラシやセンター内の掲示、SNSを使って募集し、質疑応答も主になるように組み入れた。
- ・会場の準備はセンターが行ったが、講師との連絡や調整、事業当日の進行に関しては上鳥羽橋上鉦講中が行うことにした。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・地域住民に六斎念仏を知っていただくこと。振興会と連携し、地域以外にも広く普及活動

を行うこと。

(2) 事業実施による目標の達成度

○ (1) の達成度について自己分析し、記載してください。

- ・参加者は京都市内から広く来られていたように見受けられた。普及活動の一助となったと言える。
- ・第1回、第2回ともに、内容が難しかったとの感想が多く見受けられたが、アンケートからは大勢が内容に満足されていることが見て取れた
- ・参加者からの関与と交流を促すために事前質問を募集する形式にしたところ、講師からは勉強になったとの感想があった。

4 今後の抱負

- ・事業の目標が普及啓発にあるため講座型となったが、双方向の講座となるべく質疑応答が充実するように工夫した。参加者や講師からも好評であったので、今後も参加者との交流を深めるための手立てについて考えていきたい。
- ・第1回、第2回のいずれも内容が難しかったとの感想があり、また予定時間を超過してしまった。内容については、参加者から改善方法についての提案があり、改善していきたい。
- ・第1回は参加者が少なく、同日に六斎念仏の公演があったことが影響したと思われる。他所の行事の予定を意識して日程を調整していきたい。

事業風景の写真



【事業名】地域課題事業 取組① 歌声サロン（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第 1,3 金曜日 14 時 30 分～16 時 年 24 回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン、本館 2 階旧図書室
- 3 参加人数：146 人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 384,000 円 / 決算： 384,000 円

1 事業内容

高齢者の認知症予防と住民の健康づくりを目指す。

- ①参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシ等を活用して募集する。
- ②講師は坂下正幸氏（音楽療法士）。認知症予防の講話と音楽、ボイストレーニング体操等の実技トレーニングに取り組む。楽器等は講師が用意する。
- ③センターは連絡調整や会場設営などを行う。

○評価委員会から指摘された事項と改善点

- ・指導者が固定されている。

2 準備段階での工夫

- ・参加者の募集について、参加されている上鳥羽自治連合会の老人会の方や地域の町内会の方に、参加者募集の呼びかけをしていただいた。
- ・歌声サロンで使用する楽器の準備、片づけは参加者がこなすよう協力を仰いだ。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・高齢者の認知症予防と住民の健康づくり、参加者が継続して参加することを重点とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・各回の参加人数は平均 6 人で、継続して参加される方が多い。
- ・アンケートはしていないが、「毎回楽しく活動させてもらっている」、「健康のためや社会への参加のため来ている」、「家で何もしないでいるよりも、出かけなければと思い」などの声があり、参加する事に意欲的になっておられた。

4 今後の抱負

- ・前年度（210 人）に比べて総人数が減少している。継続参加されていた方が体調不良で参加できないなどが続いたためであったが、新規の参加者が少ないこともある。活性化のためにも、参加者の募集を続けていく。
- ・歌声サロンの実技体験、参加者の意欲的な参加意識、講師と参加者との良好な人間関係な

ど、好ましいつながりが形成されている。講師が固定化されていることについては指導者・参加者とも相談していきたい。

事業風景の写真



【事業名】地域課題事業 取組② 健康体操（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第 1,4 木曜日 14 時～15 時 年 24 回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン、本館 2 階旧図書室
- 3 参加人数：118 人/年
- 4 協力団体等：京都市南区地域介護予防推進センター
- 5 予算： 145,000 円 / 決算： 144,000 円

1 事業内容

- ①参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシ等を活用して募集する。
- ②京都市南区地域介護予防推進センター（推進センター）と連携する。講師は健康運動指導士で第 1 木曜日に参加し、もう一回は参加者のみで行う。
- ③体操の内容は推進センターが推薦するメニューで、ラジオ体操や筋力トレーニング、整理体操を行う。
- ④活動場所は本館 2 階旧図書室だが、空調がないため夏季はサロンを利用する。

○評価委員会から指摘された事項

- ・講座型のスタイルに留まっている。
- ・高齢者に偏っている。

2 準備段階での工夫

- ・実施日について、参加者の希望をヒアリングし推進センターと調整した。
- ・昨年度実施した健康体操は、講師が主体となって体操を指導するスタイルであったが、今年度は推進センターが推薦するラジオ体操等の曲に合わせて行う体操を行うことになった。曲は mp3 で提供されたが、参加者がラジカセで操作しやすいように CD を作成した。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・月 2 回の体操を継続することで、生活リズムの改善や体調不良の改善、よりよい健康生活を獲得すること。
- ・健康体操の成果を地域に広げ、住民の健康志向を高めること。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・前年度(176 人)と比べ参加人数が減った。原因は、講師による指導が好評であったが、講師による指導が減ったことが考えられる。しかし、講師の指導回数は減ったが、熱心に参加されている方が多い。
- ・新規参加者があり、地域に広げることに効果があったと思われる。

4 今後の抱負

- ・推進センターの方針で、講師を必要としない自主的なサークル活動への転換が求められている。そのため、参加者のより自主的な活動が必要となり、センターはそれをサポートしていきたい。

事業風景の写真



【事業名】地域課題事業 取組③ 卓球交流会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和6年9月28日（土）13時～16時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数：22名
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算：9,000円／決算：6,000円

1 事業内容

- ①広く参加者を募集するため、地域回覧だけでなく各いきセンや南青少年活動センターや南老人福祉センターなどにチラシを配布する。
- ②当センターを利用している卓球サークルに協力を呼びかけ実行委員会を作る。
- ③実施内容やルールは実行委員会で相談し決めていく（交流を重視し時間を決めたラリー形式とする。相手が打ちやすいように心がける、など）。

○評価委員会から指摘された事項

- ・企画運営における双方向性、利用者・団体側の自発性が求められる。

2 準備段階での工夫

- ・実行委員会を作り、事前に話し合いでルールや進行を確認し、当日の進行がスムーズに進むようにした。
- ・昨年のアンケートに対戦形式を取り入れてはという提案があり、取り入れた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・卓球交流会を通じて、地域住民の交流を促進し、地域の社会貢献の担い手育成を図る。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・アンケートからは、「交流会はたまには良いと思う。」「いろんな人との交流ができて良かったです。」とあり、交流会は好評であった。
- ・交流会の後、卓球の他のグループに参加される方が現われ、交流の輪が広がっている。
- ・実行委員会で進めたが、自主的に次の交流会の実施を進めるまでには至らず、担い手の発掘、育成という点での達成はできていない。

4 今後の抱負

- ・事業についてはアンケートからは高い評価を得ており、継続して実施したい。
- ・参加者で事業の実施が行えるようになるよう、支援していきたい。
- ・参加者の大半が普段からのセンターの利用者であったが、地域外の方が2名参加された。5年度の交流会に参加された方とその友人であり、もっと増やしていきたい。

事業風景の写真



【事業名】地域課題事業 取組④ 鯉のぼりによるまちづくり（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：①令和6年10月26日（土）9時～17時
②令和7年3月1日（土）13時～16時
- 2 開催場所：①ひと・まち交流館 京都
②上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室、本館2階旧図書室
- 3 参加人数：①4名 ②28名
- 4 協力団体等：鯉のぼり保存会 青仁会
- 5 予算：決算 ①8,000円／8,000円 ②124,000円／107,735円

1 事業内容

鯉のぼり保存会青仁会の活動を広く知らせることを目標に実施した。

①ひと・まち交流館で開催され、市民活動センターと各いきセンが主催となる「みんなの文化祭」に参加し、展示や活動内容の発表を行った。

- ・作品展示会場にブースを出し、パネルや動画、活動の一部である修理した鯉のぼりの展示を行った。また、会員が常駐し、来場者に活動内容の説明を行った。
- ・上演会場では、鯉のぼり保存会の活動の発表を行った。

②センター内で活動内容の展示や活動の報告会を行った。報告会は三部構成で行った。

- ・センター全体を使い、活動についての展示を行った（第一会議室…みんなの文化祭で使ったパネルや会員が制作中の鯉のぼりなどを展示。2階…手描き鯉のぼりの展示。屋外…修理した鯉のぼりを揚げた展示や、荒野麟太郎氏が持参されたミニ鯉のぼりを揚げる体験を実施。）
- ・報告会は、第一部では、鯉のぼり保存会の会員や活動に係わっている方々が、これまでの活動について語った。第二部では、鯉のぼり保存会の活動を応援されている荒野麟太郎氏によるワークショップ（鯉のぼりに筆を使って彩色をする手描き体験）を行った。

第三部では、第一部、第二部の登壇者それぞれに、これからの思いを語っていただいた。これらの他に、鯉のぼり保存会の活動の一つである使われなくなった鯉のぼりの収集活動について、センターも協力して収集の受付を行った。また、資料の作成や活動の広報を年間を通じて行った。

○評価委員会から指摘された事項

- ・企画運営における双方向性、利用者・団体側の自発性が求められる。

2 準備段階での工夫

- ・鯉のぼり保存会は数年前から上鳥羽地区で活動をされているが、活動についてあまり知られておらず、もっと活動を知っていただきたいと相談を受けたことがきっかけで事業を実施した。
- ・鯉のぼり保存会には、パソコンやインターネットに強い方がおらず、広報や資料作成をセ

ンターがサポートした。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果, 目標等

- ・鯉のぼり保存会の活動を広く知らせることを目標とした。

(2) 事業実施による目標の達成度

○ (1) の達成度について自己分析

- ・みんなの文化祭の来場者やしみセン、いきセンのスタッフなど、上鳥羽地区以外にも活動を知ってもらう機会を得ることができた。
鯉のぼり保存会の方からは、「作品を展示することができてよかった」「もっと交流を深めたい」という感想があった。
- ・事業を実施することで、鯉のぼり保存会の活動を地域に知らせることができた。参加者の中から、活動に参加したいという方が現れたことは、成果の一つと言える。
また、子ども達の参加があり、「子どもの日に揚げられなかったので、揚げられて楽しかった」「鯉のぼりを作りたい」などの感想がり、鯉のぼりを通じて世代を超えた交流ができる可能性が見て取れた。
- ・事業内容をセンターの **Facebook** で発信するなどしたが、特に反響はなかった。

4 今後の抱負

- ・当センターが外部施設で展示を行うことは初めての取り組みであったので、展示方法や搬送方法など手探りの状態で行った。この経験を今後に生かしていきたい。
- ・鯉のぼり保存会は年間を通じて活動をされており、会から相談や資料作成の依頼などが多く寄せられた。意欲的な活動を支援するための体制作りが必要である。

事業風景の写真

①みんなの文化祭



②センターでの事業



【事業名】地域課題事業 取組⑤ 水害学習（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第1回 令和6年5月10日（土）19時～20時30分
第2回 9月7日（土）13時30分～15時
- 2 開催場所：第1回 上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
第2回 吉祥院いきいき市民活動センター
- 3 参加人数： 第1回 7名、第2回 27名
- 4 協力団体等：吉祥院いきいき市民活動センター
- 5 予算： 4,000円 / 決算： 3,000円

1 事業内容

吉祥院いきいき市民活動センターと協働で、夏に水害の体験者を交えた座談会を開催することを目標に実施した。第一段階として、上鳥羽南部いきいき市民活動センターで体験者へのヒアリングを行い、次に吉祥院いきいき市民活動センターでヒアリングの内容を踏まえた座談会を予定して実施した。

ヒアリングは、河川レンジャーの石津知子氏が行った。第1回のヒアリングの内容を踏まえた結果、座談会の予定は変更になり、「キッズ防災教室」を実施した。

2 準備段階での工夫

第1回では、それぞれのセンターで水害の体験者を探し、参加者を募った。第2回は、当センターは参加者を募った。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

- ・ヒアリングの参加者を集め、石津氏によるヒアリングと座談会が成功することを目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・第1回のヒアリングでは、水害の体験者3名に参加していただくことができた。また、水害に興味のある方も参加され、交流を図ることができた。
- ・第1回、第2回とで多くの参加者が参加し、水害についての理解を深めることができた。
- ・第2回は当初予定した内容と異なるものになったが、多くの参加者があり、成功したと考えられる。

4 今後の抱負

- ・吉祥院いきいき市民活動センターとの協働で実施することで、センター同士の交流を深めることができた。今後も機会があれば水害がテーマのこと以外でも協働事業を実施していきたい。

事業風景の写真

・第1回



・第2回



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

2. サロン運営・活用事業

※サロン運営・活用事業はアンケートをしていない。

【事業名】ふれあい事業 取組① マージャン交流（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第 1,3 月曜日、第 3 木曜日 10 時～16 時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：404 人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 216,000 円 / 決算： 210,000 円

1 事業内容

- ①HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシ等を活用して募集する。
- ②毎月 3 回、第 1,3 月曜日・第 3 木曜日、10 時～16 時に実施。
- ③参加者の中から世話役（代表者）を選び実行委員会を組織して進める。ルールや活動内容は世話役を中心にして決める。
- ④講師はなく、初心者にはゲームのルールを熟知している方が教える。

○評価委員会から指摘された事項

- ・企画運営における双方向性、利用者・団体側の自発性。

2 準備段階での工夫

- ・参加人数によってはゲームをすることができないので、継続して参加者の募集を行うこととした。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・男女や年齢を問わず、マージャンに興味、関心のある方が集まり、親睦と交流を深める。
- ・講師に頼らず、世話役を中心とした自主的な運営を目指す。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・昼休みをはさむ午前と午後の 2 部制としており、午前午後を通して参加される方が多く、熱心に参加されている。
- ・参加者は、ルールの設定や初心者への指導の他に、大会を開くなどの企画運営も自主的に実践されている。

4 今後の抱負

- ・3 台の麻雀卓を使用しているが、サロンでは手狭になってきている。さらに参加人数が増え

た場合のことを参加者と検討していきたい。

- ・参加人数によっては、ゲームの人数が足りなかったり、順番待ちが出たりすることがある。参加者数の調整が問題になっており、検討していきたい。
- ・出欠票や名簿などをセンターが作成しているが、これを参加者が担うように促していきたい。

事業風景の写真



【事業名】ふれあい事業 取組② 造形教室（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第4日曜日 10時～正午 年12回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：74人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 156,000円 / 決算： 165,000円

1 事業内容

俳句創作を通じて創造力、俳句の技能アップを目指し、伝統文化である俳句を若い世代に伝える。

①HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシで参加者を募集する。

②創作活動は次のように進める。

- 1.参加者は実施日が来るまでに各自俳句の構想を考え、メモやノートに書いて参加する。
- 2.講師と俳句の表現方法について相談し、推敲する。
- 3.詠んだ句を色紙に墨で表現する。
- 4.ちぎり絵や水彩画など絵を添えて完成させる。1回につき1作品の完成を目指す。

③作品は、センター内やFacebookなどで発表する。

○評価委員会から指摘された事項

- ・高齢者に偏っている。

2 準備段階での工夫

- ・センターで画材（色紙、筆、墨、ちぎり紙など）を準備し、必要があれば参加者が利用できるようにしておく。
- ・センターは講師との日程の調整や連絡、活動のサポートにあたる。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・参加者は俳句を詠むこと、絵を描くことの技能アップ、時間内で作品の完成を目指す。
- ・新しい参加者を増やすこと。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・どの参加者も1回に1作品を完成させることを目標に取り組まれている。新しい参加者も、完成させることができるようになった。
- ・参加者は、未完成の作品は持ち帰って完成させたり、他の参加者の俳句の推敲に参加したりするなど、意欲的に参加されている。
- ・作品はセンター内だけでなく、ひと・まち交流館で実施された「みんなの文化祭」やすこ

やかクラブ京都作品展などに出展されるなど、活動の範囲が広がっている。

- ・参加者数は増えるも、高齢者のみの参加にとどまっている。

4 今後の抱負

- ・参加者が増えたことでサロンでは狭くなってきた。また、俳句の推敲を一人ずつ順番に行っているため時間がかかり、色紙に完成させるための時間が短くなる参加者もあり、手立てについて検討していく。
- ・参加者が高齢者のみとなっている。講師と参加者と相談し、若年層の参加について考えていきたい。また、講師に頼らない創作の場として活動していくことができるか、参加者と考えていきたい。

事業風景の写真



【事業名】ふれあい事業 取組③ フラワー教室～花アトリエ講師育成実技講習会～（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第2土曜日 10時～正午 年11回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：67人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 286,000円 / 決算： 280,000円

1 事業内容

地域在住のフラワーデザイナーが後継者育成に向けて講習会を開催。受講者が講習会の成果を地域に広げていく。

- ①4年度と5年度の講習会を修了した参加者を対象とする。
- ②指導は講師が行う。センターは連絡調整や運営をサポートする。
- ③カリキュラムは第1ステップ（基礎）、第2ステップ（研究）、第3ステップ（師範）の3段階で、全33回の講習で師範資格の取得を目指す。6年度は第3ステップを行う。
- ④参加費は材料代（花代、花器含む）として1回3,300円を徴収する。
- ⑤参加者の作品をフラワーデザインコンテストに出展する。

○評価委員会から指摘された事項

- ・講座型のスタイルにとどまっており、市民活動支援の取組が求められる。
- ・講師が固定化されている。

事業の目的をフラワーアレンジメントの技能者育成としており、専門性を必要としていることから、講師による講座型の事業になった。6年度も講座型となったが、参加者がフラワーアレンジメントのコンテストに出品し入賞するなど講習会の成果が現れ、広く発信して事業の目標となる「成果を地域に広げる」ことを行いつつある。

2 準備段階での工夫

- ・センターは講師との連絡調整や相談、会場設営をサポートする。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・地域にフラワーデザイナーが少なく、フラワーアレンジメント制作に係われる人材の育成を図り、師範資格を取得することを目的として取り組む。
- ・参加者も事業の目的があるため、目標に向かって努力をされる効果が期待される。
- ・修了後、フラワーデザイナーの師範取得者が数名排出されることが予想され、地域にフラワー文化が広がっていくことが期待される。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・コンテスト（日本フラワーデザイナー協会京都支部主催「第25回京都府立植物園フラワーデザインコンテスト」）に5名出展し、5名ともが入賞された。成果の一つと言える。
- ・参加者全員が3年間の講座を修了された。しかし、6年度の途中で複数回に参加できなかった方があり、別途補習という形で受講される予定になっている。

4 今後の抱負

- ・3年間の講習が終了となり、参加者も技術を習得された。センターを、フラワーデザイナーとして活躍する場として利用していただければと思う。
- ・募集人数の都合で、講習会に参加したいが参加できなかった方があったと聞く。別のやり方で講習会を実施できればと思う。

事業風景の写真



【事業名】ふれあい事業 取組④ スマホ・パソコン交流（サロン運営・活用事業）

7 事業の概要

- 1 開催日時：第 1,4 木曜日 15 時～17 時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：3 人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 224,000 円 / 決算： 144,000 円

1 事業内容

- ①HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシで参加者を募集する。
- ②講師に頼らず、参加者同士で解決方法を話し合い、解決していく。
- ③使用するスマートフォンやパソコンは、参加者が用意する。
- ④センターは支援、サポート役として参加する。

2 準備段階での工夫

- ・センターの利用者の中に、散発的ではあるが繰り返しスマートフォンやパソコンの使い方を相談される方があり、参加を呼び掛けた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・参加者が、少しずつでもスマートフォンやパソコンを使いこなせるようになっていくこと。
- ・スマートフォンやパソコンの使い方を自ら学ぼうとする自立生を育み、生涯学習に役立てること。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・参加人数及び継続して参加される方が無く、目標の達成はできなかった。
- ・その場で解決できなかったこともあったが、いくつもの問題を解決することができ、参加者の方は充分そうであった。
（例・チラシに書かれている LINE の二次元コードを読み取り、友達登録する方法。
 - ・インターネット接続していないノートパソコンで、画面に“更新が必要です”と頻繁に表示される。
 - ・ノートパソコンとスマートフォンを接続してインターネットに接続したい。
 - ・自宅の複合機でスキャナー機能を使いたい。）
- ・事業の時間以外にスマートフォンなどの使い方を質問される方に参加を促したが、参加されるには至らなかった。

4 今後の抱負

- ・継続して参加される方はなかったが、問題を解消することができた。問題を解決すること

が望まれており、ニーズの把握ができていなかった。

事業風景の写真



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1	利用料金の収入実績
	令和 6 年度実績：627,300 円（前年度比 118% 令和 5 年度実績：532,500 円）
	{ 内訳 会議室等： 627,300 円 付属設備： 0 円 ※自主事業分を除く スモールオフィス：0 円
2	管理運営に係る経費の収支決算
	別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

（1）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】 令和 6 年 11 月実施

【調査項目】 窓口サービス

（2）センター独自アンケート

5 事業（上鳥羽六斎念仏発表会、勉強会 1,2、卓球交流会、鯉のぼりによるまちづくり）について、下記の設問にてアンケートを実施した。値は 5 事業の平均値（設問 3,4,5 については、3 段階で評価）。

設問 1 年代

設問 2 どうやって知りましたか

設問 3 実施したことについて

設問 4 内容について

設問 5 センターの対応

設問 6 自由記載

2 利用者満足度把握の結果

（1）全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
61.8%	37.7%	0.05%	0%	0%

（2）センター独自アンケート

設問 1 年代

	10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
平均	0%	2.5%	7%	10.7%	11.9%	8.2%	45.1%	14.6%

設問2 どうやって知りましたか

	センター	チラシ	知人	新聞	ネット	その他	未記入
平均	35.4%	17.6%	35.9%	1.2%	0%	8.9%	1%

設問3 実施したことについて

	満足	普通	不満	未記入
平均	95.2%	3.8%	0%	1%

設問4 内容について

	満足	普通	不満	未記入
平均	95.2%	3.8%	0%	1%

設問5 センターの対応

	満足	普通	不満
平均	96.6%	3.4%	0%

設問6 自由記載

○上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～

（発表会）

- ・講演、映像、上演（発表）、インタビュー、ワークショップ、盛りたくさんでしたが、一般的な上演の機会にはあまりないので、とても貴重でした。インタビューの対応がシャイなのがかわいかったです。
- ・今まで積み上げてきた技術が、次へ次へと受け継がれている様子を子どもたちの演奏をみて感じました。ありがとうございました。
- ・子供達の成長がみれてよかった。

（勉強会）

- ・専門用語がたくさんあり、内容の半分ぐらいしか理解できませんでした。（講師が）みなさんの質問にこたえるところが一番興味深かったので、論文や考察が中心ではなく、こちらからスタートして沢山の時間を使ってもらえたら、もっと楽しい時間になったと思います。
- ・仏教史の側面を知ることができ、よかった。
- ・大森先生のお話がとても分かりやすく、おもしろかったです。
- ・自分達の身近なところに、地域の人の思いが詰まった知恵・工夫一杯の行事が行われている事に改めて気付かされました。

○卓球交流会

- ・いろんな人の技術を見られて良かった。
- ・今後もこのような催しがあれば参加します。楽しかったです。

○鯉のぼりによるまちづくり

- ・昔のことを思い出しました。こいのぼりを上げると息子たちが喜んでいました。
- ・こいのぼりを通したまちづくりに貢献したいです。
- ・お子さんから年配の方まで楽しめる機会で、とても良かったです。

3 意見等への主な対応状況

利用者からの要望や希望に対して次のように対応した。

・卓球交流会

Q. トイレをきれいにしたい

A. 古びた感によるものもあるが、ゴミや汚れに早く対処できるよう、見回りの回数を増やした。

・全センター共通窓口サービス調査より

Q. げた箱で、下足とスリッパの置き場の区別をして欲しい

A. 下足とスリッパを同じ段に置いていたところを、上段と下段への置き分けがわかるようにイラストを掲示し、置き分けに協力していただけるよう利用者に声掛けをした。

Q. 掃除機でほこりを取ることに。

A. 会議室の入れ替わり時など、掃除の回数を増やした。

Q. イベントなどのお知らせがホームページ上で遅い。

A. 事業の内容をぎりぎりまで検討しているためでもあるが、なるべく早くお知らせするように検討する。

Q. センターへ来た時、少し戸惑った。

A. センターの周囲にセンターの周辺地図や方向がわかるものを掲示した。また、遠くからでもわかり易くするようにセンター2階の窓際に貸し会議室の情報を掲示した。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

○取り組んだ事業等の総括

- ・貸館の件数及び料金収入は増加してきている。コロナ以前からの利用者による利用が戻り、新しく利用される方も増えている。また、定期利用者による利用回数も増えており、利用者が過ごしやすい環境づくりが上手くいっていると感じている。
- ・市民活動支援・活性化事業において、吉祥院いきいき市民活動センターと連携して事業を実施した。現体制になってから他のセンターとの協働は初めてであったが、このような取り組みをしていきたい。
地域で活動されているグループ（鯉のぼり保存会）の支援に力を入れた。どのようにすれば目標を達成できるかを検討しながらであり、年間を通じた活動になった。また他の事業でも、参加者の関与を高めるための工夫を行うなど、新しい試みを行っていった。
- ・サロン運営活用事業については、昨年度のようにサークル活動に移行したものは無かった。継続している事業については、引き続き参加者の交流の場としつつ自走化へ向けていきたいと考えている。
- ・情報発信については、不足していると感じている。発信したことへのフォローが不十分で、双方向性を活用できていない。各職員のスキルアップや情報発信の技術を学ぶなどして、より効果的に利用していきたい。

○今後、解決すべき課題等

- ・依然、評価委員会からの主に三点の指摘事項（講座制の事業を減らす事、参加者との双方向の取組を考える事、講師の固定化を減らしていく事）について、取り組みは足りていないと感じており、今後も改善していく。
- ・貸館に関して、利用率の高い第一会議室の日中の空き時間が少なくなっている。日曜日においても、卓球での利用と他での利用の競合が発生してきている。

○次年度に向けた対応

- ・6年度と同様に事業によってはサークル活動に移行できるように支援し、また、参加者が主体となる事業の取り組みを進めていく。取り組みを進めるにあたってはセンターだけでは力不足であるため、まちづくりアドバイザーとも相談していきたい。
- ・貸館事業に関して、新規利用者の増加が予想される。現時点では定期利用者どうしによる利用時間の競合は発生していないが、競合が発生した場合の事を検討しておきたい。
- ・市民活動を支援する上で力量不足を感じてきている。各職員のスキルアップに努めていきたい。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

○施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項
特になし。

○年間事業計画にある事業の中で、実施できなかった事業

- ・事業① 上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～「取組③ ワークショップ」（予算：48,000 円）

上鳥羽橋上鉦講中様と連携して年度内に行う予定であった。しかし、ワークショップの講師役となる講員が多忙となり、事業を実施する時間を確保することが困難となった。また、会員の方が持っている技術の継承を目標としており、代わる人がいないため、実施を見送ることとした。